

富士山ではこれまで西斜面に分布する大沢火砕流のほか断片的に分布しているものなどが知られていたが、最近の調査によって、北～北東斜面の一部にも約 1500～2000 年前に噴出した 3 層の火砕流堆積物（滝沢火砕流 A' , A, B）が確認されている（富士山ハザードマップ検討委員会第 5 回基図部会資料, 2002）。ただし、火砕流堆積物の明瞭な堆積面は未だ確認されていない。

火砕流は新富士火山の活動の中で、従来考えられていた以上に頻繁に発生しているものと想定されるが、規模や頻度を知るにはさらに詳しい調査が必要である。図一 8 は、富士山北東斜面において滝沢火砕流 B の分布が確認された地点を示したものである。火砕流堆積物は、細粒の火山灰を多く含み、分級の程度が悪いのが特徴で、高温の場合には、溶結したり炭化木材などが含まれることがある（写真一 5）。



図一 8 北東斜面において滝沢火砕流 B の分布が確認された地点
(富士山ハザードマップ検討委員会第 5 回基図部会資料, 2002)



写真一 5 東斜面に分布する滝沢火砕流 A の露頭写真
(写真中央のノートの大きさは 15.5cm × 11.5cm, 撮影場所は滝沢林道標高約 1,500m 付近)

4. 10 富士山以外の山地

4. 10. 1 愛鷹火山

愛鷹火山については、由井・藤井（1989）論文に記載されている地形分類図を参考に空中写真判読を行った。

主な地形分類項目は、以下のとおりである。

- 1) 推定火口
- 2) 溶岩円頂丘
- 3) 溶岩流
- 4) 火砕流堆積地
- 5) 火山麓扇状地
- 6) 土石流堆積地
- 7) 愛鷹火山体斜面

4. 10. 2 小御岳火山

小御岳火山は、津屋（1968）を参考に写真判読を行った。

4. 10. 3 箱根火山・その他の山地

既存資料を参考に写真判読を行った。

4. 11 河成・海成地形

河成・海成地形は以下の図により、段丘、扇状地・緩扇状地、谷底平野・氾濫原、砂州・砂堆、砂丘、河川敷・浜に分類した。

- 1) 国土地理院（1978）土地条件図 1 : 15,000 富士
 - 2) 国土地理院（1981）土地条件図 1 : 25,000 沼津
 - 3) 国土地理院（1981）土地条件図 1 : 25,000 吉原
- なお、段丘のうち、古富士泥流堆積物の確認されている芝川沿いについては、津屋（1968）を参考に写真判読を行った。

4. 12 変動地形

変動地形は以下の資料に基づいて表示した。

- 1) 国土地理院（2000）都市圏活断層図 1 : 25,000 富士宮
- 2) 中田高・今泉俊文編（2002）活断層詳細デジタルマップ, 東京大学出版会

4. 13 その他

本図では、津屋（1968）による“溶岩流”や“火山灰”, その他の放出物”については区分を省いている（図一 6）。高橋ほか（2002）により富士山火口や山体斜面に溶結火砕岩層の分布することが報告されたものを取り入れ、スパター及び溶結降下火砕物を含めてスパター等堆積面として区分し表示した。

5. 主な地形の表現方法

5. 1 溶岩流

溶岩流は、最新の山頂火口からのマグマ噴火の噴出物である約 2200 年前の湯船第 2 スコリアを基準に、新时期溶岩流と旧期溶岩流に区分した。溶岩流の表現は、橙色